

きた誇りある伝統を守破離の道程で見据えさらに発展させるための努力をしなければならぬ。現在と未来の不透明で予期できない世の動向に惑わされずに伝統的な武徳の哲理と信念を堅忍不拔の精神で貫く事に徹すると共に、自ら適応変化できる度量も切磋琢磨しなければならぬと感じる。

本年度は二月五日に開催された第四回社員総会に始まり、重要な懸案が正会員によって決議承認され本年度の事業計画を推し進める事となった。第八回武道執行専門委員会においては武専委員のリーダーシップと貢献度が本会の発展の大きな鍵となるという事が強調された。四月二十八日の高段者審査は本会の未来の武道エリートを育成していく上に重要な審査会であり多くの候補者が受験することを期待したい。四月二十九日に開催される創立百二十二周年記念第五十五回全国武徳祭は数カ国の国際部参加者も含め誇りある伝統武道大会として開催準備が進められている。それに続いて六月四日には本会の歴史始まって以来の伊勢神宮内宮における古武道奉納演武大会が実施される。伊勢神宮内宮における正式参拝と祈願行事、奉納大会行事には本会のあるべき姿が試される重要な試金石となる。そして八月五日にはフランスのクレルモンフェラン市において世界十数カ国が参加するフランス武徳祭及び国際青少年武徳祭が開催され、クレルモンフェラン市の中央に在する市民パークには大日本武徳会の石碑が設置され桑原桜並木通りが造園される。九月十八日には第二十二回全国青少年武徳祭が開催され、十月一日には第二十五回平安神宮古武道奉納演武大会が額殿において開催されることになっている。十一月十二日には第二回青龍殿国宝不動明王古武道奉納演武大会が予定されている。

さらに本会の後援事業として大阪府支部主催の住吉神社古武道奉納

演武大会が三月二十六日に開催され、六月四日には広島県支部主催の厳島神社古武道奉納演武大会が予定されている。さらに春号と秋号の会報出版事業を含めるとこれら全ては本会が掲げる現在と未来の伝統武道保存継承、青少年育成、国際友好親善、本会の総合的發展に寄与するものと確信する。

総会でも発表されたが青少年育成ファンドの設立が会員全員の力で達成されればその奨学金はさらに未来の子供たちへの貴重なチャンスを与えることが出来る重要な手段となるに違いない。そして武徳会館の設立は会員の総力でもって作り上げることが出来る本会の未来的夢でもある。過去七十数年間、仮住まいを点々としてきた本会にとつてこれを実現する事は対外的にも必要ではなからうか。

本会は常に襲古還新の持つ意義を念頭に入れながら未来志向で前進しなければならぬと考える。今こそ自ら時代に適応した変化を促していくことが必要ではなからうか。本当のレガシーは過去の遺産だけにあるのではなく未来に何を残せるかということが大きな命題であると思われる。そのためには我々が現在できる事、我々であるから出来る事、本会が出来る事の全てを着実に実践することが未来への新しいレガシー構築につながると思われる。

これらの目的を達成するための最重要課題は、会員全員が本会の目指すことを理解し、いかに精力的に協力していくかにかかっている。共通の志を大切にし、一丸となって心願成就に向かって歩みを揃えることに全力を尽くしたい。

最後に、この書面をお借りして本会の関係各位に厚くお礼を申し上げます。